

豊かな海に生きる岬っ子

若狭町立岬小学校・三方中学校岬分校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	2回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	12回(のべ) 12日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	0人
授業ボランティア(含:低ボラ)	17人
登下校支援ボランティア	0人
その他()	0人

(3) 特色ある活動

テーマ「 ふるさと教育 」

具体的活動内容

岬校では、地域の産業や働くことについて児童生徒の理解を深めることをねらいとして、大敷網体験学習や干物作り体験学習を実施している。この体験学習には地域や家庭の協力が欠かせないが、「子どもたちのために」と積極的な協力や支援があり、地域と連携した有意義な活動となっている。

(1) 大敷網体験学習

事前学習として、大敷網の船長さんに体験談を話してもらったり、児童生徒の質問に答えてもらったりする時間をもった。体験に基づいた話で説得力があり、児童生徒は、体験学習への期待感をふくらませることができた。

体験は、校区の3区に分かれて実施。

午前4:00に出航し、7:00頃帰港。どの船上でも児童生徒は重たい網を引き、港では、獲れたての魚の選別作業や氷入れ作業などを体験した。漁師さんたちの連携した無駄のない動きに刺激され、児童生徒もテキパキと活動した。また、漁の醍醐味や苦労を肌で感じるよい機会となった。



(2) 干物作り体験学習

昨年度は、祖父母参観日を利用して実施したが、参加者から「疲れた」という声があったことから、今回は指導者を頼んで実施を予定した。ところが、「地域の方は声が掛かるのを待っている。祖父母に声掛けをする。」と、指導者が、積極的に呼びかけや準備をしてくださった。

おかげで、ほとんどの祖父母の参加があり、前回同様、祖父母参観日のようなになった。児童生徒にとって、祖父母に教わりながら地域の特産物作りに挑戦できたことは大変意義があった。また、塩漬けをしている時間に、祖父母がにぎやかに歓談し、「よかった、よかった。」の声で盛り上がっているのを見て、指導者の言葉の意味がよくわかった。

成果と課題

(成果) 児童生徒は、体験学習を通して、地域の方々に感謝の気持ちを持ち、また、地域の人や自然のすばらしさを実感し、郷土を愛する心情が育っている。

(課題) これらの活動は長年継続されているが、児童生徒が計画段階からかかわるなどして、主体的に活動する場面を増やしていくことが必要である。今年度、生徒が、「目玉商品の開発」という提案をしている。岬校ならではのオリジナル料理を考えることなども含めて地域に提案し、児童生徒の主体的な活動として継続していきたい。